

SPIN Letter



B=6 T

Today's News

世界最高磁場下における粉末X線回折測定の実現

東大物性研・阪大極限センターのX線回折用パルスマグネット開発チーム、SLS/PSI・SPring-8/JASRIの検出器開発チーム、そしてSPring-8/理研のX線回折実験チームの連携により、SPring-8のBL19LXUビームラインにおいて、38Tまでのパルス強磁場下における粉末X線回折測定が行われ、反強磁性体CoOの大きな磁気体積効果の観測に成功しました。実験は、パルス磁場強度が最大となる時間にピクセル型検出器の露光（1ミリ秒）を同期させて2次元の粉末回折イメージを記録するという手法を用いて行われました。今後、この実験手法は磁場誘起構造相転移を示す物質研究に対する新しいアプローチとして期待されます。この研究成果については、来春松山で開催される日本物理学会において、A1班の鳴海康雄氏（東大物性研）により報告されます。

Announce

来年もよろしくお願ひ致します

10月のスタートアップ会議から3ヶ月、各班の研究体制も軌道にのってきたところかと思ひます。来年夏には強磁場の国際会議RHMF2006も開催されますが、それに向けて日本の強磁場スピン科学の勢いを示せるように、領域の一層の発展に班員のご尽力と関係者のご支援をお願ひして今年最後のSPIN letterとしたいと思ひます。来年が皆様と強磁場スピン科学にとってよい年になりますように。

強磁場スピン科学ホームページ：<http://spin100.imr.tohoku.ac.jp>

All rights reserved. Copyright Application of High Field Spin Science in 100T